

リオ五輪へ 正念場!!

今井 正人さん (五十五回卒)

な、と思っっています。学生さんも分かっていてとは思いますが、努力したものは必ず残ります。」

青田さんが最も努力した時期は、前出の大学入試時期と、大学卒業時期だそう。卒業時期には、卒業試験と留学先の試験のために努力を重ね、その結果、首席で卒業されました。在校生も努力の大切さを忘れず、部活動に勉強

に励んでください。90分にわたるインタビューの間、どの質問に対しても落ち着いた口調で言葉を選びながら丁寧に答えていただきました。特に、オルガンに対しては真摯に取り組んでいる様子がひしひしと伝わってきました。今後も益々活躍されることをお祈りします。

みなさんご存知の同窓生今井正人さんが、昨年2月の東京マラソンで自己ベストの2時間7分39秒をマーク、日本人最高の7位でゴールし、世界陸上北京大会への出場権を得ました。7月に髄膜炎を発症し、残念ながら世界陸上出場はなりませんでしたが、2時間7分39秒の結果は、同窓生、南相馬市民を大きく勇気づけてくれました。

今年にはリオデジャネイロ・オリンピックの年です。髄膜炎による練習回避の影響が心配されていましたが、元日に行われた日本実業団駅伝での走りはブランドを感じさせませんでした。5区で出場した今井さんは、7位で襷をもち、区間2位の快走で先行する選手を抜き去り、チームを4位に押し上げました。このまま上り調子で2月28日を迎え、五輪代表選考レースの東京マラソンで再び活躍してくれることを期待します。

2月8日に今井さんからメッセージを頂きましたので紹介します。

「夏の世界選手権時は、皆様にご心配をおかけしました。お陰様で体調も回復し、現在はリオオリンピック出場に向け日々トレーニングを行



なっております。選考レースになる東京マラソンでは、自分らしく世界のトップ選手にチャレンジし、しっかりと代表を掴み取りたいと思います。ご声援よろしくお願ひ致します。」

なお、東京マラソン当日、同窓会東京支部では沿道から今井さんに声援を送ることになりました。佃大橋上の直線が終る下りカーブの37km付近で、「原町高校」のぼり旗を掲げ応援します。支部事務局員12名だけでなく、約百名に応援の案内を送りましたので、大応援団が結成されることでしょうか。終盤の勝負どころで、同窓生の大声援が今井さんを力づけ、この会報が発行される頃には、朗報が届いている事を心から祈ります。頑張れ、正人!!

今井さん マラソン全記録

年月	大会名	順位	記録
08年 8月	北海道	10位	2時間 18分 01秒
10年 12月	福岡国際	5位	2時間 13分 23秒
11年 3月	びわ湖毎日	6位	2時間 10分 41秒
11年 12月	福岡国際	4位	2時間 10分 32秒
12年 3月	びわ湖毎日	42位	2時間 17分 50秒
13年 2月	東京	11位	2時間 10分 29秒
13年 11月	ニューヨークシティ	6位	2時間 10分 45秒
14年 2月	別府大分毎日	2位	2時間 09分 30秒
14年 11月	ニューヨークシティ	7位	2時間 14分 36秒
15年 2月	東京	7位	2時間 07分 39秒

文壇の新星

こざわ たまごさん (五十七回卒)



原町高校図書館には「柏曜文庫」のコーナーがあります。在校生のために、同窓生や原町高校に縁のある方々から寄贈された作品が数多く収蔵されています。今年度も13点ほど寄贈されましたが、その中に、大手出版社から作家デビューを果たした同窓生の作品があります。こざわたまごさんの「負け逃げ」(新潮社)です。こざわさんは、大学卒業後、会社勤めをされながら執筆活動に励まれ、2012年「女による女のためのR・18文学賞」読者賞を受賞した

注目の作家です。「負け逃げ」は、相手を彷彿とさせる地方を舞台にした短編が六作収められた秀作で、読売新聞、週刊新潮、ジェイ・ノベル、ana等々、数多くのメディアでも紹介され、称賛を受けている作品です。

こざわさんに寄稿していたいただきましたので、ご紹介させていただきます。

福島を離れて数年が経ち、一念発起した私の頭に最初に浮かんだのは、青空の下、どこまでも広がる故郷の田園風景でした。完成した作品は、母校の姿はもちろん、福島の風土が色濃く反映されたものとなりました。

福島県民といえば、引つ込み思案で照れ屋。奥ゆかしくて我慢強い。本当はみんな目立ちたがりの癖に、出しゃばりな人は嫌われる。そんな県民性を好ましく思う時もあり、はがゆく思う時は、福島の嫌な所の方が目について、つい文句が多くなっていたかもしれせん。

けれど、「福島」が片仮名

やローマ字で表記されるようになってから、故郷の悪口は大きな声では言いづらくなりました。福島は「かわいそう」で、故郷は「大切」。震災後、「絆」という言葉とともに世の中に蔓延した空気が、福島を世間とは対等ではない場所に押しやってしまったように感じました。

福島には、いい所がたくさんある。けれど、同じくらい嫌な所だってある。そんな当たり前のことを、当たり前に言えるようになりたい。そんな思いで書き上げた物語は、私にとって故郷へのラブレターです。住んでいた頃、気軽に言えていた悪口も、住んでいた頃は恥ずかしくて口に出来なかった生まれ故郷の美しさも、この本に託しました。

故郷を好きな人や嫌いな人。今福島に住んでいる人や、昔住んでいた人。たくさんの方々に、この物語が届くことを祈っています。

こざわさんの次回作にも期待します。

支部だより

【東京支部総会】

台風18号が上陸・鬼怒川が決壊し、各地で甚大な被害を受けていた、10月12日(日)に第32回原町高等学校同窓会東京支部総会が、上野精養軒で正午より開催されました。朝からせつこうの天気となり、開催まで沢山尽力された人々の労をねぎらっているかのよう、遠方からも含め、百五十名の方に出席して頂きました。

総会では川鍋裕夫さん(17回)の司会で始まり、冒頭に、出席者全員で、亡くなられた方々への冥福を祈る黙とうを致しました。続いて紺野政弘支部長(11回)の挨拶でありましたが、突然の体調不良の為に席となりました。事務局より平成26年度会計報告は原案通り承認されました。その後来賓の方々の挨拶が続き、渡辺一成同窓会長(14回)の挨拶があり、現原高の校長松岡浩三先生の挨拶と続きました。その話の中で沢山山活動が報告紹介されました。また奥村修平同窓会事務局局長(37回)より原高の現状、生徒たちの進路、部活動等の状況についての報告があり、第一部が終了いたしました。

第二部の懇親会も、長谷川吉男さん(2回)の乾杯の後、懇談に入り、久しぶりに会う友人、再開を喜ぶ顔、先輩、後輩達と尽きない楽しい話題で、時のたつのも忘れ盛り上がりしました。宴も闌になったところで、太田盛さんの尺八、只野廣美さんの三味線による演奏、湊清一さん(11回)の相馬民謡の唄・高橋千恵子さん(2回)、大西静子さん(7回)、岡田光好さん(8回)、富永チカ子さん(10回)の誘導で合唱があり、会場は最高の盛り上がりを見せました。

最後は「ふるさと」の復興を祈りつつ、原町高校校歌の大合唱で、三時間に及ぶ総会、懇親会の幕を閉じました。

次回の第33回総会は、平成28年10月10日に上野精養軒で正午より開催する予定です。

進学・就職される皆様またご家族の方で原高を卒業された方で首都圏に住まわれる方に、支部総会にぜひ出席を賜り、懐かしい方と親交を交わして場を盛り上げて頂けることを望んでおります。同窓会本部まで御一報下されることをお待ちしております。

東京支部事務局
上杉 清晴(二十一回卒)



盛り上がった懇親会

【小高支部】

平成27年度卒業生並びに御父兄に対し心からお祝いのことばを申し上げます。

同窓会小高支部は全くの休止状態です。東日本大震災で太平洋岸500kmの町は人も車も打合せもなく避難を余儀なくされもう5年目を迎えています。

支部長は二轉三轉の後ようやく原町区牛越の仮設住宅。

会計は相馬市に避難。事務担当は福島市に。更に何もかもパソコンに記録した資料は、全部村上の住宅と共に津波に持ち去られしまった。以上のような実情から小高区に戻らないと、役員会と総会を開催することができません。

復旧に日時を要するものと感じていますが、一日も早く支部のスタートが切れるように最大の努力を致します。

小高支部長 西内 眞介 (相商六回卒)

現在から未来へ

ご卒業おめでとうございませう。卒業生の大半の方々は大学への進学となることでしょう。また原高を最後に社会人となられる方もいることでしょう。東北震災・原発事故以来5年が経過しようとして現在の私、私は5年前の事柄を記憶の中から少しずつ薄れている自分に気付き、あの悲惨さを薄れさせて良いものかと思ひます。周りを見れば震災時の光景は無くならず、復旧が急がれております。また原発事故の放射能の問題も除染作業と自然作用により、毎日テレビで放映される放射能の値も少しずつ下降していると報道されております。しかし以前のような生活に戻れる日がいづ来るのか?あの海岸近く家並みが戻るのか?田んぼに稲が黄金色に染まるのか?私の生きていくうちに見られるのか?政府・東電にまかせて、この復旧・復興が本当に出来るのか?心配でなりません。

貴方がたのような若い頭脳で、新しき将来を描き、若い人達の思うようなことを実現させて行つて欲しいと願つてやみません。

原町支部長 荒 忠敬 (十三回卒)